

都道府県名	岡山県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	勝央町立勝間田小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	20
児童数	64	57	70	69	58	66	2	386	

研究の概要

1. 研究主題

「自ら学び、豊かに自己表現できる子どもをめざして」  
「わかる」「できる」授業の創造

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

実施学年 = 全学年  
教科 = 算数科を中心に

(2) 年次ごとの計画

平成14年度

テーマ  
「わかる」「できる」授業の創造  
研究の見通し(仮説)  
児童が「わかった!」「できた!」と感じる授業を積み上げていくことで、学ぶことの楽しさを実感させていく。それが、児童に達成感や自己充実感を持たせ学ぶことへの自信にもつながっていく。また、自ら学ぼうという意欲になり、学んでいることを表現したいという意欲にもつながっていく。そう仮説を立て、「わかる」「できる」授業の創造をめざしていく。初年度は、「わかる」「できる」授業の創造を目指しながら、学習のペースになる読み(音読)・書き(漢字)・計算(四則計算)を中心に取り組む。これは、誰もが、努力した分だけ「わかった!」「できた!」と言え、また、どの教科・学習内容にも必要不可欠なものであるからである。この読み・書き・計算をしっかり身につけさせることで、次年度以降の様々な学習にも自信を持って取り組み、「わかった!」「できた!」をこれまで以上に体感できるようになると考える。

研究の内容・方法  
児童一人一人に確かな読み・書き・計算力を育成  
「わかる」「できる」授業を目指した授業公開  
少人数およびTT指導による実践 ~算数科を通して~  
外部講師を招いての学習会

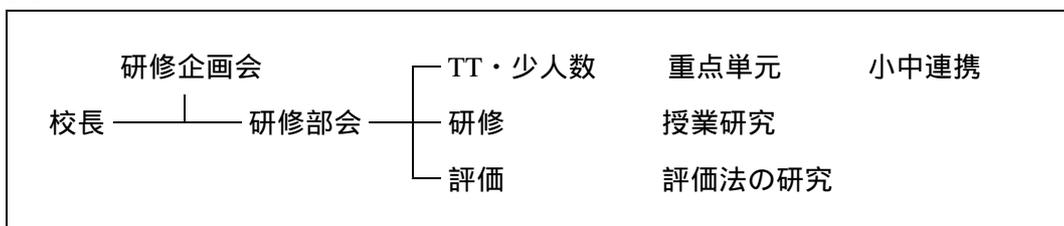
平成15年度

テーマ  
「わかる」「できる」授業の創造  
研究の見通し  
「わかった喜び」「できた自信」が学習意欲の向上につながり学力が向上すると仮説をたてた。その手立てとして、算数科の重点単元を設定し、より細やかな指導をすることで仮説に迫ることができると考えた。この取り組みの成果が、算数科の他の単元、他の教科にも及ぶものと考えられる。  
中学校との連携については、小学校と中学校の9年間を見通した教育をすることによって、子ども達にとって必要な学力をつけることができ

	<p>ると仮説をたてた。</p> <p>研究の内容・方法          思考力の伸ばし方          児童一人一人に確かな読み・書き・計算力を育成          算数科重点単元の設定と取り組み          指導内容（単元構成，補充・発展問等）          指導方法・体制（TT・少人数，習熟度別学習・課題別学習等）          「わかる」「できる」授業を目指した授業公開          少人数およびTT指導による実践 ～算数科を通して～          学力テストの実施          外部講師を招いての学習会          本校と中学校との連携</p>
--	--

平成16年度	<p>テーマ          「わかる」「できる」授業の創造</p> <p>研究の見通し          「わかった!」「できた!」と思える授業実践を積み重ねていく。その中で、特に思考力をつけていくことで児童は様々なことに自信を持ち、学習への意欲と実践力が育ち、主題である自ら学び、豊かに自己表現できる子どもを育てることができると考える。</p> <p>研究の内容・方法          思考力を高めるための「わかる・できる」授業の創造          児童一人一人に確かな読み・書き・計算力を育成          算数科重点単元の見直しと取り組み          指導内容（単元構成，補充・発展問題等）          指導方法・体制（TT・少人数，習熟度別学習・課題別学習等）          少人数およびTT指導による実践 ～算数科を通して～          学力テストの実施          外部講師を招いての学習会          本校と中学校との連携</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・ 基礎となる計算力がついた。(100マス計算)5年生割算で比べると、比べると平成14年度平均点76.1点時間7分12秒、平成15年度平均点90.2点時間6分33秒である。他の学年も同様に力をつけている。
- ・ 中学校入学時算数科テストで50点未満が平成14年度は33.3%(90人中30人)平成15年度は26.8%(82人中22人)となり、特に個別指導を要する子の力をつけることができた。
- ・ 算数科で、重点単元の取り組みができた。少人数およびTT指導の実践で、個々の児童によりきめ細かな指導ができた。また、習熟度別学習の導入により、一人一人の課題に応じた学習ができた。
- ・ 計算力テスト及び学力テストの結果や、日々の評価をもとに一人一人の課題を見つけて指導することができた。
- ・ 小中の連携では、互いに授業参観をすることで連携の糸口ができた。また、各教科の中学校での課題を知ることができ、小学校での対応を考えることができた。

- ・ 研修体制を見直すことができ、研究をより推進することができた。

## 2. 今後の課題

- ・ 思考力を伸ばし育てる授業づくりを通して、粘り強く自力解決しようとする子どもの育成。
- ・ 特に個別指導が必要な児童への対応。
- ・ 評価計画に基づいた評価活動。  
漢字・計算テストの結果資料添付  
《 前年度とおよそ同時期（12月）同内容で実施したもの 》

### 学力等把握のための学校としての取組

- ・ 全校漢字・計算テスト
- ・ 国語・算数学力テスト

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 公開授業  
日時 平成15年11月17日（月） 午後1時～5時  
場所 勝間田小学校  
内容 研究の概要説明 公開授業（5年算数科）  
研究協議  
講演「わかる・できる算数科教育」  
黒崎東洋郎 岡山大学教育学部助教授  
対象 岡山県勝田郡を中心に津山教育事務所管内各校

平成16年度予定  
公開授業 誌上公開

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                  13～18学級                       19～24学級  
                                  25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  一部教科担任制                       その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
                                  生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
                                  体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                       無